

LEGEND Travel Award 2019

学会参加レポート

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 免疫アレルギー学分野

茂木 琴音

今回、私は2019年12月11日から13日にかけて浜松市で開催されました第48回日本免疫学会学術集会に参加させていただきました。今回の学会参加にあたり、BioLegend Travel Award に採択していただき、心より御礼申し上げます。拙文ではございますが、今回の学会参加で得られました貴重な経験についてご報告させていただきます。

私はT細胞依存的な免疫制御、アレルギー、皮膚と粘膜防御に関するシンポジウムとワークショップに参加いたしました。最も印象深かった講演は、免疫チェックポイント分子であるPD-1の発見ならびに、それを標的としたがん免疫療法の功績により昨年ノーベル賞を受賞された本庶佑先生による講演です。本講演では、PD-1発見の経緯を含んだ研究者としての歩みをお話されていました。講演の中でPD-1阻害薬は一部の患者には効果がないことが課題であり、その解決策としてミトコンドリアを活性化させる物質として抗高脂血症薬のベザフィブラートが、調整すべき環境として腸内細菌叢があると挙げられていました。PD-1欠損マウスの実験結果から、腸内免疫によって腸内細菌叢が調節されており、また腸内細菌叢も神経系や全身のシステムティックな免疫系をコントロールすることが分かってきたとお話されていました。つまり、PD-1が腸内細菌叢を調節し免疫系ならびに神経系をコントロールすることが示唆されます。この知見を発展させることで治療効果の向上と自己免疫性の副作用のコントロールに繋がると考えられ、免疫学の幅広い可能性を改めて実感しました。

今回の学会では私自身ポスターセッションにて、マウスアトピー性皮膚炎モデルにおいて好塩基球由来のIL-4が炎症を悪化させるという内容で発表させていただきました。その中で、様々な先生方と意見交換を行うことができたとともに、多くのサジェスチョンをいただき、有意義な時間を過ごすことができました。同年代の研究者とも交流を図ることができたのは、大変良い刺激になり今後の研究活動におけるモチベーションの向上に繋がりました。今回の学会で得られた経験を糧に今後も研究活動に精進してまいります。

末筆ではございますが、今回の学会参加にあたりご支援をいただきましたBioLegend社様、Tomy Digital Biology社様には心より厚く御礼申し上げます。